

主な災害調査

1 激特事業及び災害助成事業等における多自然川づくりアドバイザー制度に基づく現地調査・助言（新潟県・和歌山県）

2011年7月27日から30日にかけて、新潟・福島県の一部区域では2004年7月新潟・福島豪雨を上回る記録的な大雨を観測し、五十嵐川、阿賀野川等で被災した。五十嵐川・塩谷川・羽根川等では、被災原因を踏まえた護岸形式、根入れ、環境に配慮した河道掘削形状、護岸や水際処理等について助言を行った。阿賀野川では、ライン下りの区間を含んでいたため、景観に配慮した護岸や、輪中堤の高さ等に関する助言を行った。

台風12号により、紀伊半島では降り始めの2011年8月30日からの総降雨量が多いところで1800mmを超過する等の記録的な豪雨となり、日高川・太田川・那智川等で被災した。日高川では、霞堤の治水機能を確認した上で堤防等の整備の方針について助言した。太田川では、低水路河岸際に連続して存在する河畔林の保全に配慮した掘削方法等について助言した。那智川では、今次災害で埋塞した河道の将来的な変化を見越した河道縦断形の設定、世界遺産である那智大社等への配慮について助言した。

河川研究部長 藤田光一、河川研究室長 服部敦、主任研究官 福島雅紀
環境研究部 河川環境研究室長 天野邦彦、主任研究官 大沼克弘

2 新潟・福島豪雨による信濃川水系五十嵐川等災害調査

平成23年7月に発生した新潟・福島豪雨は、信濃川水系および阿賀野川水系において堤防の決壊等河川管理施設に大きな被害を生じさせた。河川研究室では、災害調査の派遣要請を受け、信濃川水系信濃川、五十嵐川および刈谷田川、阿賀野川水系阿賀野川を踏査した。堤防の破堤状況や漏水状況を確認し被災原因について議論するとともに、平成16年7月水害を契機として災害復旧事業が行われた護岸等の被災状況を確認し、今後の対策について議論した。

河川研究部 河川研究室長 服部 敦

3 台風12号による新宮川水系相野谷川等災害調査

台風12号の影響により近畿地方南部では記録的な大雨となり、新宮川水系およびその周辺地域では山地部で大規模な山腹崩壊が生じるとともに、下流河道では堤防の決壊等、河川管理施設に大きな被害が生じた。河川研究室では、災害調査の派遣要請を受け、新宮川水系新宮川および相野谷川、那智川水系那智川を踏査した。堤防高を大幅に上回る出水によって輪中堤が完全に冠水した場合の被害状況、狭隘な山間部の河道が土砂によって埋塞し洪水流が堤内地を流下した時の被害状況を確認し、今後の対策について議論した。

河川研究部 河川研究室長 服部 敦

4 平成23年7月新潟・福島豪雨による被災橋梁現地調査

2011年（平成23年）7月27日から30日にかけて新潟県及び福島県で発生した集中豪雨により、河川の水位が上昇し一部が氾濫、土砂崩れなどの被害が発生した。氾濫などの影響により河川流域に架かる橋梁が多数被災した。道路構造物管理研究室では、只見川に沿う国道252号を中心に橋梁の被災状況の調査を行った。流出した上部工の状況、橋台及び橋脚の損傷状況、河川の増水の影響により変形した補剛げたの損傷について確認を行った。

道路研究部 道路構造物管理研究室長 玉越 隆史